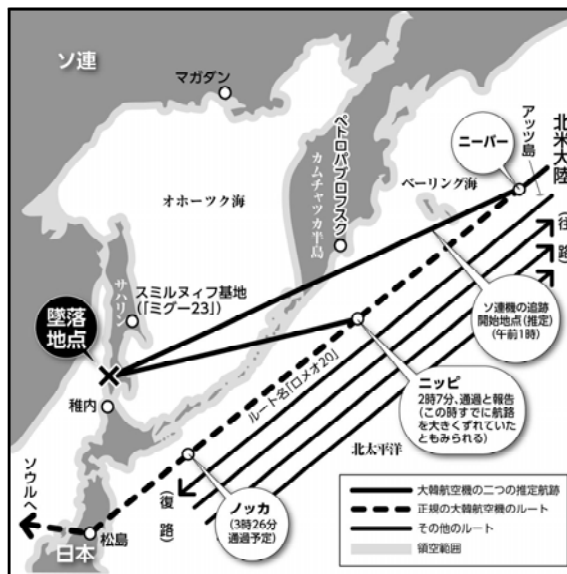


極東の隣人 ロシアの本質

佐藤守男著 四六判ソフトカバー172頁 本体 1,700円
ISBN978-4-8295-0718-6

信ずるに足る国なのか？

1930年代からの日本とソ連・ロシアの確執の歴史を
ソ連要人の亡命事件、主要な国境紛争、
日本軍の対ソ連情報活動（特に通信情報）、
戦後起きた陸海空の三大悲劇
というテーマで分析し
ロシアとはどんな国なのかを明らかにする



著者 佐藤 守男 (さとう もりお)
1932年三重県生まれ。1999年北海道大学大学院法学研究科公
法専攻博士課程修了、博士（法学）。現在、北海道大学大
学院法学研究科附属高等法政教育研究センター研究員。
著書に、『情報戦争と参謀本部一日露戦争と辛亥革命』（芙蓉
書房出版、2011年）、『情報戦争の教訓—自衛隊情報幹部の回
想』（芙蓉書房出版、2012年）、『警察予備隊と再軍備への道』
（芙蓉書房出版、2015年）がある。

リュシコフ亡命事件

張鼓峯事件

葛根廟事件

三船殉難事件

大韓航空機007便撃墜事件

第1章 日ソ軍事衝突の遠因となったリュシコフ亡命事件

—1938年6月

1. リュシコフ亡命事件の背景
親族も容赦なく「粛清」するスターリン／高級将校も九割が「粛清」された
2. リュシコフ、満州に亡命
亡命者のプロフィール／亡命者に対する尋問／亡命者の提供した情報資料の価値
3. 事件の影響
ソ連国内の動揺と波紋／極東ソ軍への影響／国境紛争・張鼓峯事件の誘発

第2章 ノモンハン事件を呼び込んだ張鼓峯事件—1938年7月

1. 張鼓峯事件の背景
近代日本の国防／満ソ国境紛争
2. 軍事衝突の経緯
事件発生の直接原因／日ソ両軍の交戦状況／停戦交渉／叙勲
3. 事件の影響
停戦協定の違反／張鼓峯事件と極東国際軍事裁判

第3章 昭和陸軍の対ソ通信情報活動

1. 参謀本部から始まった対ロシア情報活動
参謀本部と大本営／通信情報活動の特徴／陸軍中央特種情報部の創設
2. 関東軍が強化した通信情報活動
関東軍の歴史／関東軍の対ソ認識と情報組織の強化／関東軍の対ソ通信情報活動
3. 朝鮮軍が力を入れた対ソ宣伝ラジオ放送
朝鮮軍の歴史／朝鮮軍と関東軍／朝鮮軍の対ソ通信情報活動

第4章 戦後陸海空三つの悲劇

1. 満州開拓民を襲った悲劇、葛根廟事件—1945年8月
ソ連軍の満州侵攻と関東軍／満州開拓民の悲惨／葛根廟の悲劇
2. 北海道占領企図が明らかになった三船殉難事件—1945年8月
小笠原丸(1397ト)／第二新興丸(2700ト)／泰東丸(880ト)
3. 大韓航空機007便撃墜事件—1983年9月
事件当時の時代背景／事件発生の経緯／事件への対応／ソ連・ロシア側の事件への対応／事件の教訓

9月中旬 新刊搬入予定です

配本部数申込締切は 8月29日(火) です

FAX 03-3813-4615

芙蓉書房出版

〒113-0033
東京都文京区本郷3-3-13
http://www.fuyoshobo.co.jp
TEL. 03-3813-4466
FAX. 03-3813-4615

発行 芙蓉書房出版	注文数	注文者
極東の隣人ロシアの本質		
9月新刊 本体 1,700円	部	